

株式会社デイトラにおける

生成AI活用事例 レポート

2025年1月版



本資料の目的

本資料の目的は、「**社内で”使える”生成AI活用ノウハウを提供すること**」にあります。

現代は事業展開のスピードがかつてないほど速くなっています。ITを駆使することで事業検証からマーケティング施策の展開まで素早く行えるようになり、各社の競争も激化しています。

しかし、日本企業のほとんどは**IT人材・マーケティング人材の不足に直面**しています。特に中小企業やベンチャー企業で多いのが、「**良いプロダクトはあるのに、マーケティング施策のリソースがない**」「**社内の煩雑な業務に追われている**」といった悩みです。

そんな時代に突如現れたのが、**生成AI**です。

この新技術により、あらゆる業務に関わるコストが劇的に下がりつつあります。

これからはAIを軸としたDX化を実現できるか否かが企業の命運を握ることは疑いようがありません。

弊社は2020年にオンラインスクール事業を開始し、業界最大級の規模へと急成長してきました。

社員10名、半リモートという体制ながら新規事業の展開やマーケティング施策の推進を急スピードで行えてきたのは、**ITをフル活用して徹底的に効率的な業務フローを構築してきた**からです。

そして今、社員全員が生成AIをフル活用し、トライ&エラーを繰り返して知見を溜めていっています。

本資料では、当社が実際に効果を実感した **生成AIの活用事例5選** を厳選し、法人企業向けにまとめました。

具体的な業務フロー、ツール名も紹介していますため、ぜひお役立てください。

目次

- 01. 会社概要**
- 02. 事例紹介①～⑤**
 - ・ 概要
 - ・ 導入方法
 - ・ ツール紹介
- 03. AldeaLinkのご紹介**
- 04. お問い合わせ**



株式会社デイトラ

「仕事につながるWebスキルを身につける」をコンセプトにしたオンラインスクール“デイトラ”を運営しています。

プログラミング・デザイン・ライティング・動画編集・マーケティングなど、多彩なWebスキルを学べる環境を提供。

個人・法人問わず広くご利用いただいています。

口コミ・コンテンツマーケティングでの集客に成功しているため、競合他社に比べて安価にサービスを提供できているのが特徴です。

その結果、「業界最安級、コスパ最高のスクール」として口コミが広まり、受講生数も業界最大級の規模となっています。

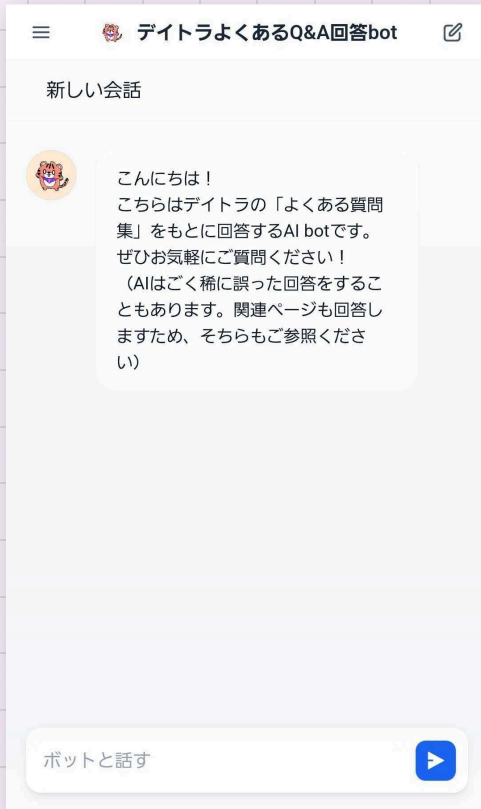
- 2020年 Webスキル特化型オンラインスクール「デイトラ」をリリース
- 2021年 「めざましテレビ」にてCM放映
- 2022年 会社四季報 業界地図 2023年版に『プログラミング』業界で掲載
- 2022年 ベネッセコーポレーションとデイトラが共同開発した新講座が開講
- 2022年 2022年度『ベストベンチャー100』に選出
- 2022年 厚生労働省-求職者支援訓練の実施機関として認定
- 2023年 経済産業省の「リスキリングを通じたキャリアアップ支援事業」に採択
- 2025年 横浜DeNAベイスターズのスポンサーに就任
- 2025年 受講生30,000人突破

Difyを活用したチャットボット作成

社内FAQをNotionで管理していましたが、社員が必要な情報を見つけにくく、問い合わせ対応の負荷も高いという課題がありました。この課題を解決するため、自社Q&Aを学習させたチャットボットをDifyで作成しました。



事例紹介①の概要



▲Difyで作成したチャットbot

課題/背景

NotionにFAQをまとめたが、ユーザーが欲しい情報を探しきれないケースがあった

単純な質問でも人間がチャットで対応する必要があり、負荷が高まっていた

取り組んだ施策

自社が保有するQ&Aファイルを学習させたチャットボットをDifyで作成

一次対応をチャットボットに任せることで、利用者の質問を効率的に処理

成果/効果

ユーザーが必要情報へ迅速にアクセスできるようになり、問い合わせ対応時間を削減

ボットに投げかけられた質問内容を可視化し、FAQの整理や対応改善に活用可能に

事例紹介①の導入方法

簡単な処理のため、無課金で使えるChatGPTでもOK

データはリアルタイムに同期されないことに注意する

ユーザーからの質問と回答を収集する。

STEP
01

頻出する質問について、Notionにまとめる。
整理するときにAIを使うのも有効。

STEP
02

Difyを使ってNotionをデータソースとしたチャットBotを作成する。
Notionを修正したときは、Difyに学習させたデータも修正する。

STEP
03

作成した「よくある質問チャットBot」のURLをLINEなどの自社サービスに掲載する。

STEP
04

チャットBotへの質問内容・利用状況を確認し、よくある質問をアップデートする。

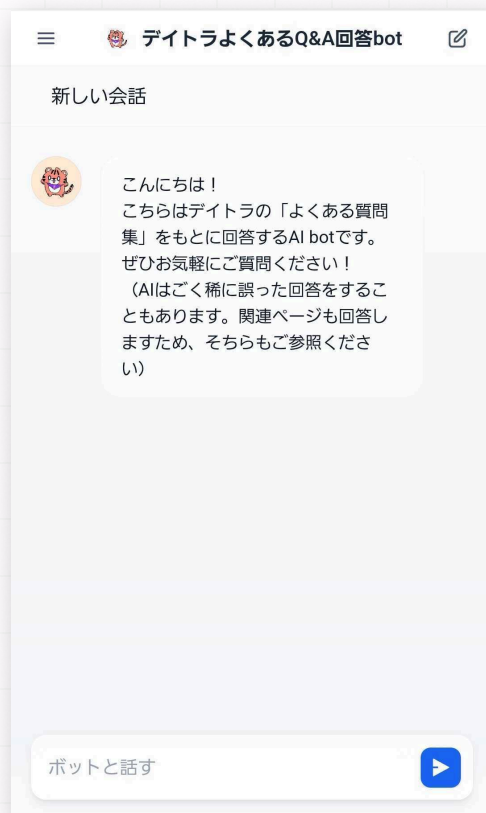
STEP
05

POINT

- Botは**参考元のソース（「よくある質問」のページなど）を提供する仕様**にすることが大事です。AIが好みに回答すると、誤った回答をする恐れがあるからです。
- また、**全部をBot対応にしようとし**ないことも大切です。人間が回答することでファン化や購入に至ることがあるので、AIと人間それぞれの守備範囲を明確にしましょう。



Difyとは？



▲Difyで作成したチャットbot

概要

Difyは独自のチャットBotやワークフローを素早く構築・運用できるプラットフォームです。

多様なモデル対応や拡張機能を備え、柔軟に開発できるツールとして注目が集まっています。

特徴

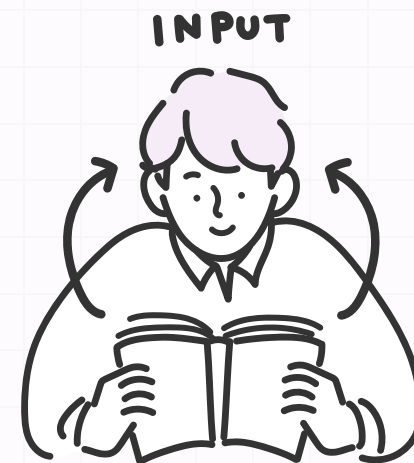
Difyの特徴は、複数のAIやAPIと連携しながらノーコードで高度なチャットフローを設計できる点にあります。

実務では「自社データを元にしたチャットbotの作成」「複数のタスクを連続して実行するワークフローの作成」に使われています。

インターン生の研修

インターン生に短期間で自社情報や業界知識を習得させる必要がありましたが、効率的な学習方法がないことが課題でした。

そこで、AIを使った情報収集研修と自社情報チャットボットを用いた自習を組み合わせ、口頭テストで理解度を確認するプログラムを導入しました。



事例紹介②の概要



▲Web検索に強い「Felo」



▲自社用bot作成に強い「NotebookLM」

課題/背景

インターン生に**短期間で自社情報や業界の基礎知識を習得させる必要があった**

自社情報や業界の基礎知識が**まとまった資料や専用研修がなく、効率的な学習が難しかった**

取り組んだ施策

AIを使った情報収集方法を教える**研修プログラムを導入**

自社情報をまとめたチャットボットを提供し、**インターン生に自習させる仕組みを構築**

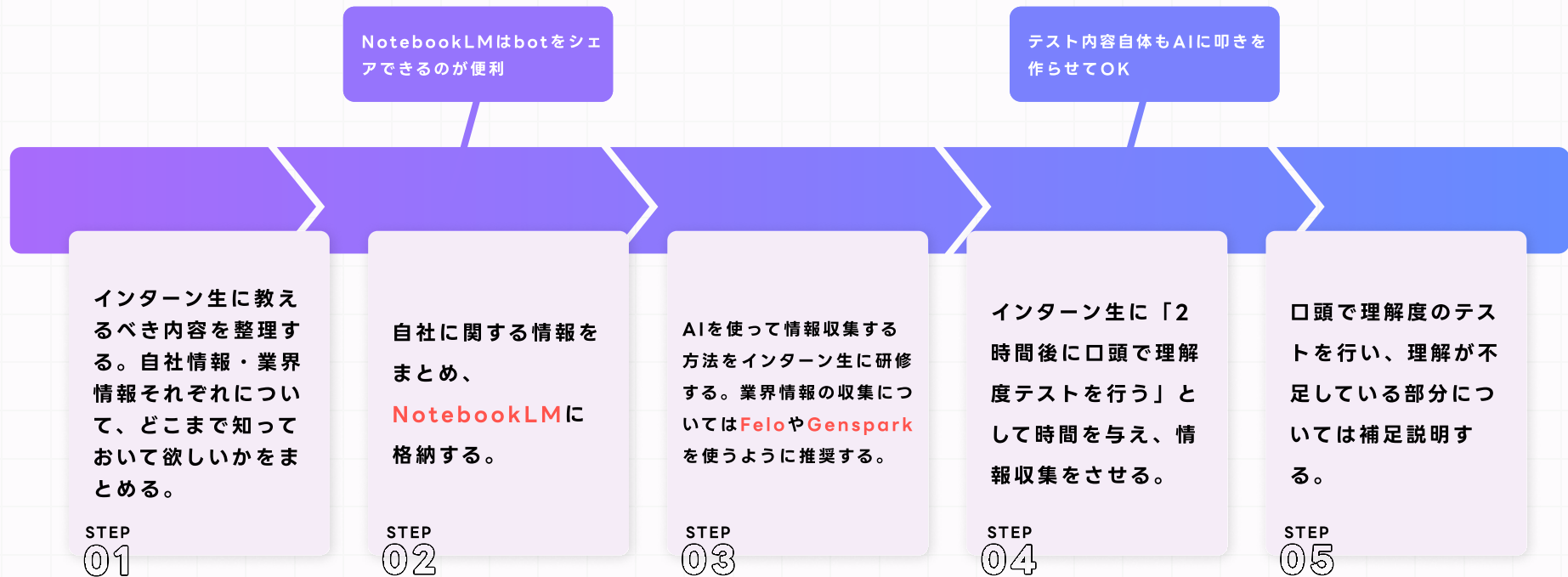
口頭テストで学習成果を確認し、**足りない部分をフォロー**

成果/効果

教育担当者が**つきっきりで教える時間を削減し、効率的な研修を実現**

インターン生の理解度を客観的に把握し、**的確なフォローアップが可能に**

事例紹介②の導入方法

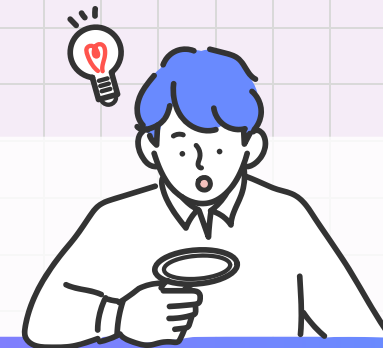


POINT

- ・ 漫然と情報を与えるのではなく、「テストを行うから、そのために情報収集をせよ」と**目的を与える**方が**能動的な学習が進む**。また、その中でAIの使用に慣れるという効果もある。
- ・ **Felo**や**Genspark**といったWeb検索系AIツールは業界情報の収集以外にも、競合調査・口コミ調査などにも広く活用できる。



NotebookLMとは？



概要

NotebookLMはGoogleが提供する、**ユーザーがインプットしたデータをもとに回答するチャットbot**を作れるツールです。
大容量で検索性に優れ、サイトのURLやYouTube動画のURLも情報源にできるなど、さまざまな情報源を取り入れられます。

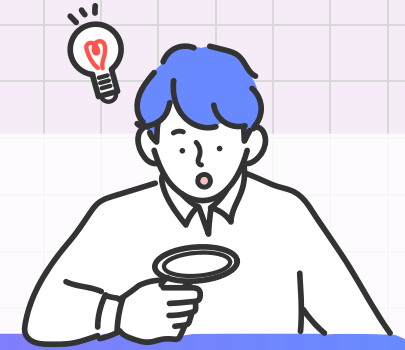
特徴

独自情報を元にしたチャットを作れて、社内用にシェアしやすいのが特徴です。
まだ活用事例があまり表に出てきてはいませんが、「**自社商品データを元にしたコピーライティングの作成**」「**複数の専門家のYouTubeを元に回答してくれる特化bot**」など、活用の幅が広いツールです。



▲自社用bot作成に強い「NotebookLM」

Feloとは？



概要

Feloは**国内企業が提供するAI検索エンジン**です。
Web上の情報を横断的に検索して回答を生成し、マインドマップやスライド形式でも出力できます。

特徴

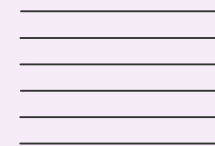
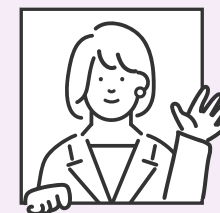
AI検索エンジンの中でもアップデートが速く、**最新のAIモデルを素早く反映している点が特徴**です。
Web情報の検索性能が高いため、リサーチ業務に適しています。
無料版でも高いパフォーマンスを発揮します。



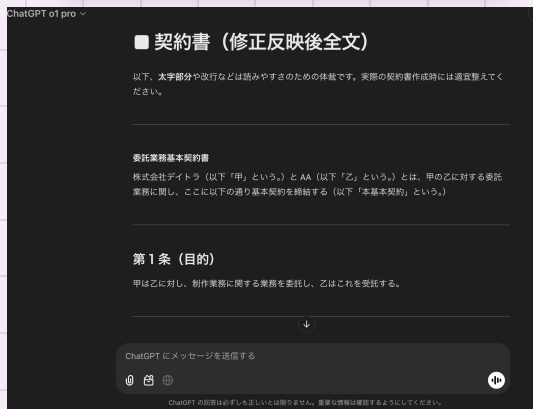
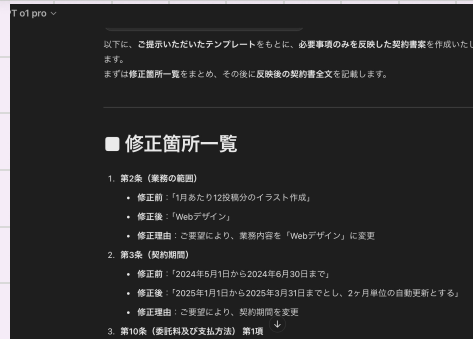
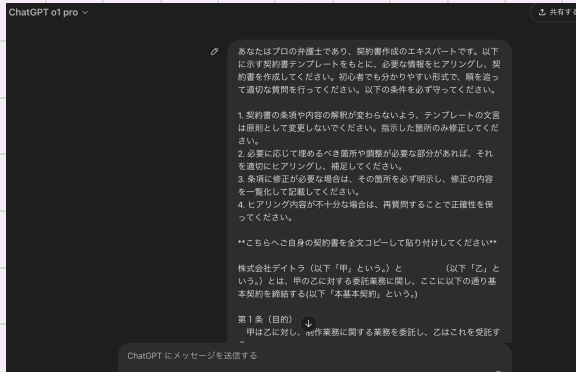
▲Web検索に強い「Felo」

契約書作成支援

従来の契約書作成は、担当者と法務間の煩雑なやり取りで時間を要し、非効率であることが課題でした。そこで、自社独自の契約書生成プロンプトを用いて担当者がAIからヒアリングを受け、法務が最終確認するフローに変更しました。



事例紹介③の概要



課題/背景

従来の契約書作成は、担当者から法務へ依頼・ヒアリング・ドラフト作成と、複数工程に時間を要していた

担当者と法務の間で確認の往復が発生し、効率が低下していた

取り組んだ施策

自社独自の契約書生成用プロンプトを作成し、AIからヒアリングを受ける形で契約書を作成

担当者が事前に作成した契約書を法務が微修正・最終確認し、契約締結を行うフローへ変更

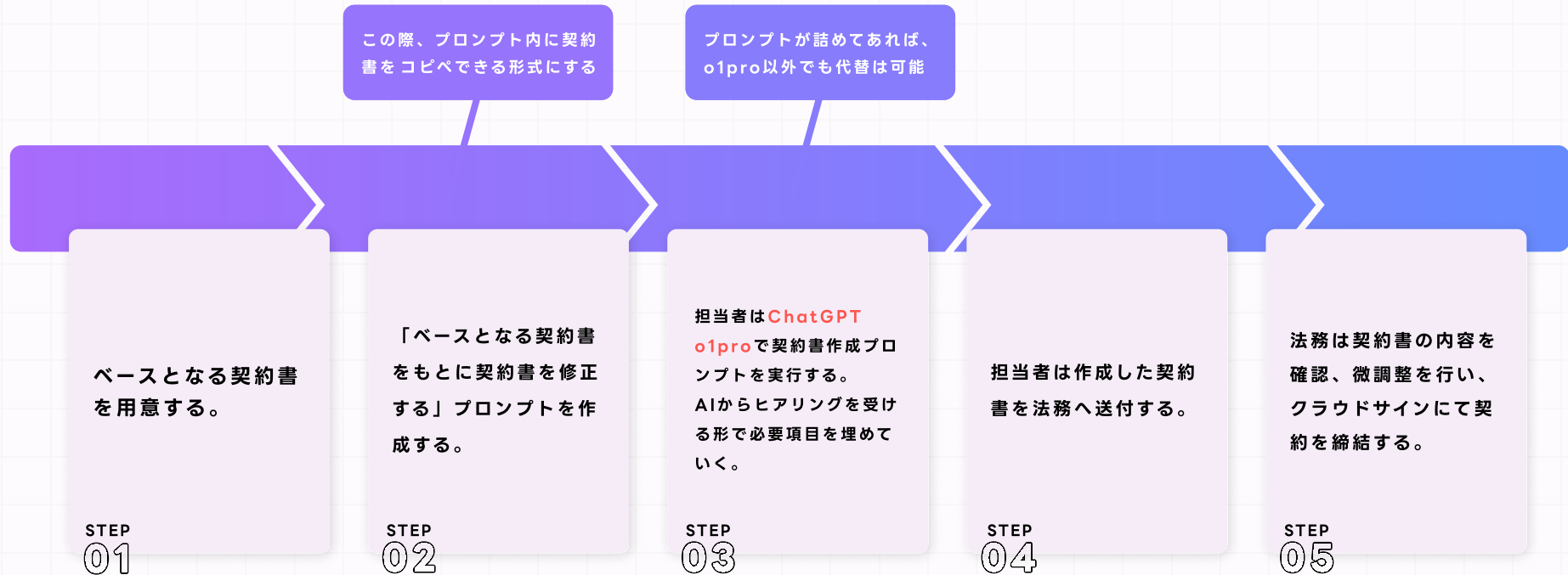
成果/効果

契約書作成までの確認フローが簡略化され、法務・担当者ともに作業時間が大幅に短縮

担当者主導でドラフトを準備できるため、法務の負担を軽減し、締結までのスピードを向上

▲AIからヒアリングを受ける形で契約書を作成

事例紹介③の導入方法

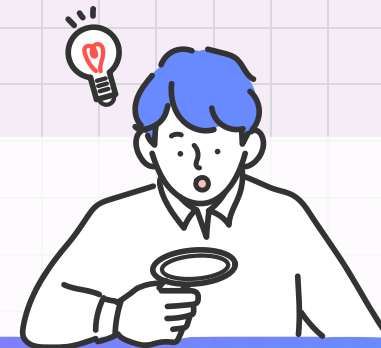


POINT

- 契約書をゼロから作らせるのではなく、**ベースとなる契約書を用意しておく**。自由に作らせると法務チェックの工数が大きくなるため、部分的に修正していく形式にするのが実践的。
- **読み込ませた内容はOpenAIの学習データに使われる恐れがあるため、機密性の高い情報の取り扱いには注意が必要。**



ChatGPT o1proとは？

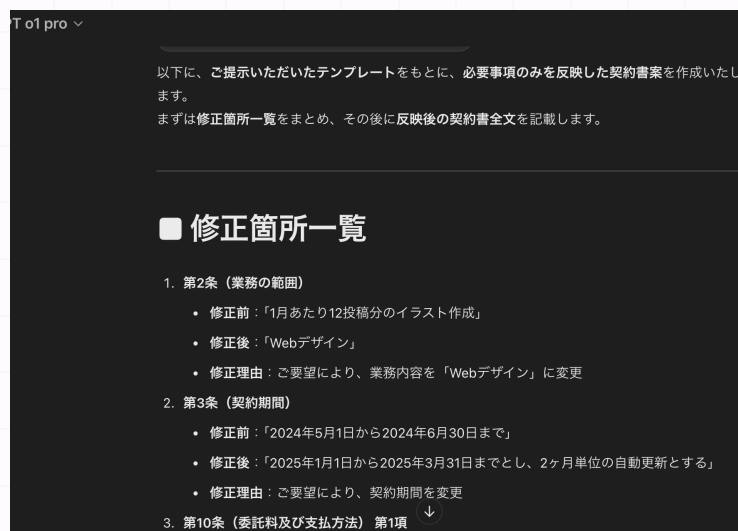


概要

ChatGPT o1proは、**ChatGPTの中でも最上位のモデル**です（2025年1月時点）。特に高度な推論・処理において、他を圧倒するパフォーマンスを発揮します。
利用には月額200ドルの課金が必要です。

特徴

月額費用は他ツールに比べ高いですが、それに見合った性能を持っています。**自社内の検証ではコンテンツ生成業務に向いている**ことがわかっています。
ただし出力に数分時間がかかります。そのため、**簡単なものは高速な他のAIで、高度なものはo1pro**という使い分けがおすすめです。

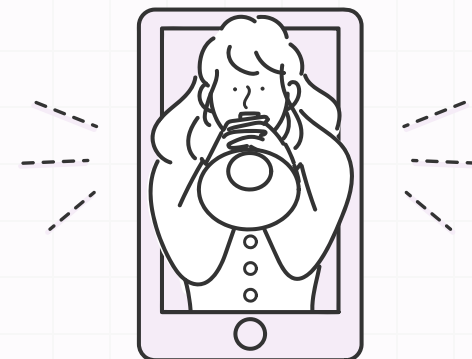


▲AIからヒアリングを受ける形で契約書を作成

プレスリリース作成

プレスリリース作成に時間とコストがかかり、発信頻度が低く、会社情報の露出機会が限られていることが課題でした。

この課題を解決するため、AIを活用したプレスリリース作成フローを導入し、社内での執筆・編集を効率化しました。



事例紹介④の概要

1つのツイートから始まった「デイトラ」の軌跡

デイトラは、2019年1月のTwitterでの1つの投稿から始まりました。代表の大滝は、かつて文系営業職からプログラマーへ転身した経験を持ちます。その経験から、「自分のように働き方に悩む人たちに、Webスキルという新たな可能性を届けたい」という強い想いを抱いていました。

しかし当時のプログラミング教育は、高額な学習費用や難しい専門用語が障壁となり、初心者が独学で学ぶための環境は整っていませんでした。

「誰もがもっと気軽にプログラミングを学べる環境があれば、きっと人生を変えるチャンスが広がるはず。」

そんな想いから、Twitter（現：X）で「#30DAYSトライアル」という無料の学習企画をスタート。毎日1題ずつ、誰でも理解できる言葉で、プログラミング学習のステップを投稿し始めたのです。

この取り組みは瞬く間に広がり、数日で1,200人の方が参加。その後「デイトラ」という愛称とともに、多くの方々の挑戦を支える存在として成長してきました。SNSを通じて「デイトラに出会って人生が変わった」という声を数多くいただき、その想いは今日まで脈々と受け継がれています。

「未経験でも・迷わず・楽しく学べる」を実現

デイトラは「デジタルスキル教育を通して挑戦する人々の夢を叶える」をミッションに掲げ、圧倒的なコストパフォーマンスと、未経験者でも楽しく学べるステップ形式のカリキュラムを特徴としています。動画を中心としたわかりやすい教材、一日一題形式のカリキュラム、そして丁寧なフィードバックの場を提供することで、多くのデジタル人材を輩出してきました。

2024年、新たな挑戦の1年

2024年、デイトラは更なる挑戦を重ねてまいりました：

▲実際に配信したプレスリリース

「SNSから生まれたオンラインスクール「デイトラ」が受講生3万人を突破～創業5周年を迎え、初のセレモニーイベントを開催～」

課題/背景

多忙な社員が合間にプレスリリースを作成していたため、作業時間がかかり外部発注も発生

発信頻度が低く、会社情報の露出機会が限られていた

取り組んだ施策

AIを活用したプレスリリース作成フローを導入

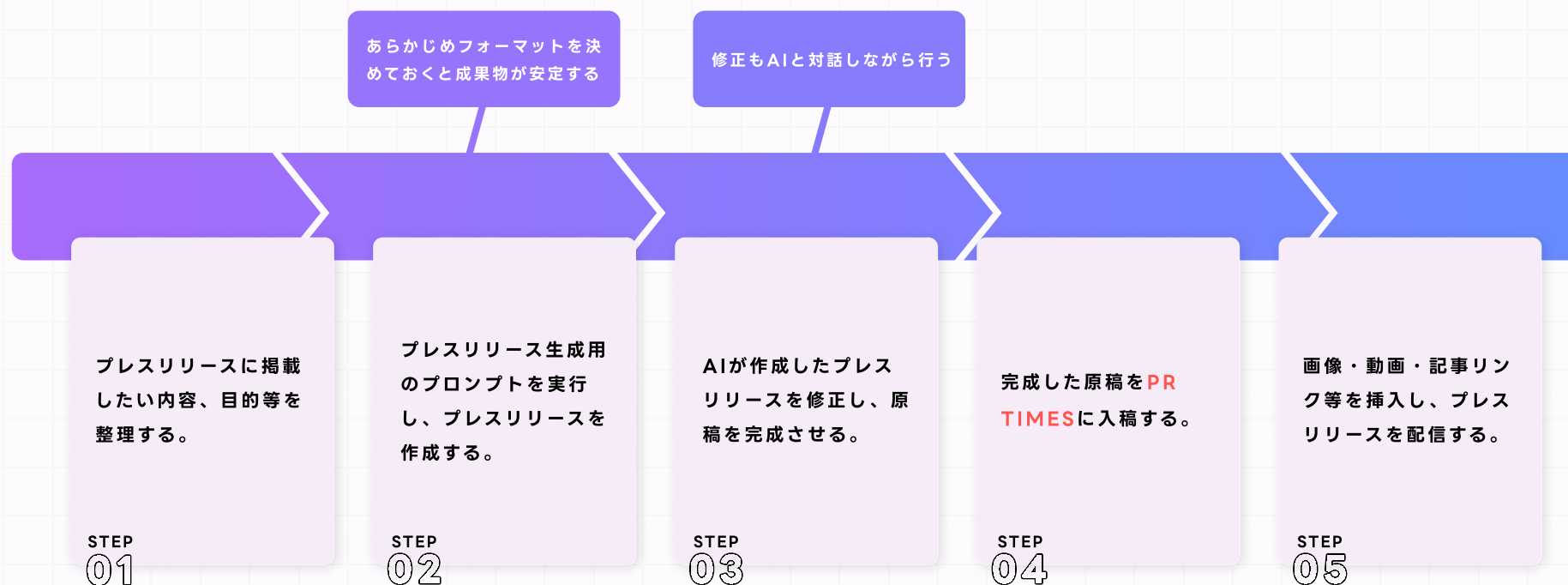
作業時間の短縮により、社内での執筆・編集を効率化

成果/効果

2020年～2023年の4年間で合計24回の発信が、2024年単年で24回配信するまでに増加

メディア転載数が拡大し、露出機会と認知度が向上

事例紹介④の導入方法



POINT

- ・ プレスリリースのフォーマットが決まっている場合、それを再現するようなプロンプトを作成するのがおすすめ。その際は、サンプルとなるプレスリリースを元に、そのフォーマット自体をAIに分析させる。そうして作成したフォーマットと元のサンプルを提示すると、AIのモデルによらず出力が安定しやすい。



自社メディアのインタビュー記事作成

インタビュー動画からの記事作成は、ライターの手作業により時間がかかり、WordPress入稿等の後工程にも手間がかかることが課題でした。

そこで、AIを活用して文字起こしから記事作成、文字装飾までを自動化し、3分で完成度80%の状態に仕上げるフローを構築しました。



事例紹介⑤の概要

デザインコンペで優秀賞を獲得！ 実務しながらの体験でスキル向上



Sayumi

コンペで優秀賞ってすごいですね！制作期間はどれくらいだったんでしょうか？

およそ1~2週間ほどでした。UI編が終わったタイミングだったので、「見やすさ・使いやすさ」を特に意識しました。クライアントさんから参考サイトも共有いただいていたので、それを参考しつつマガジン風のカテゴリ分けを提案したり、遊び心も大切にしました。



Yuka

単に作るだけでなく、「プラスアルファの提案」を意識したんですね。実務でもそれは大いに役立ちそうです！



Sayumi

おかげで、課題に取り組むたびに分析力やデザイン力が高まった実感がありますね。実務ながらのやり取りができるのも、デイトラのコンペの魅力だと思います。



▲実際に生成した記事

課題/背景

インタビュー動画からライターが手作業で記事を作成していたため、作業時間が長引いていた

WordPressへの入稿や文字装飾など、後工程にも手間がかかっていた

取り組んだ施策

AIを活用して文字起こしから記事作成、文字装飾までを自動化

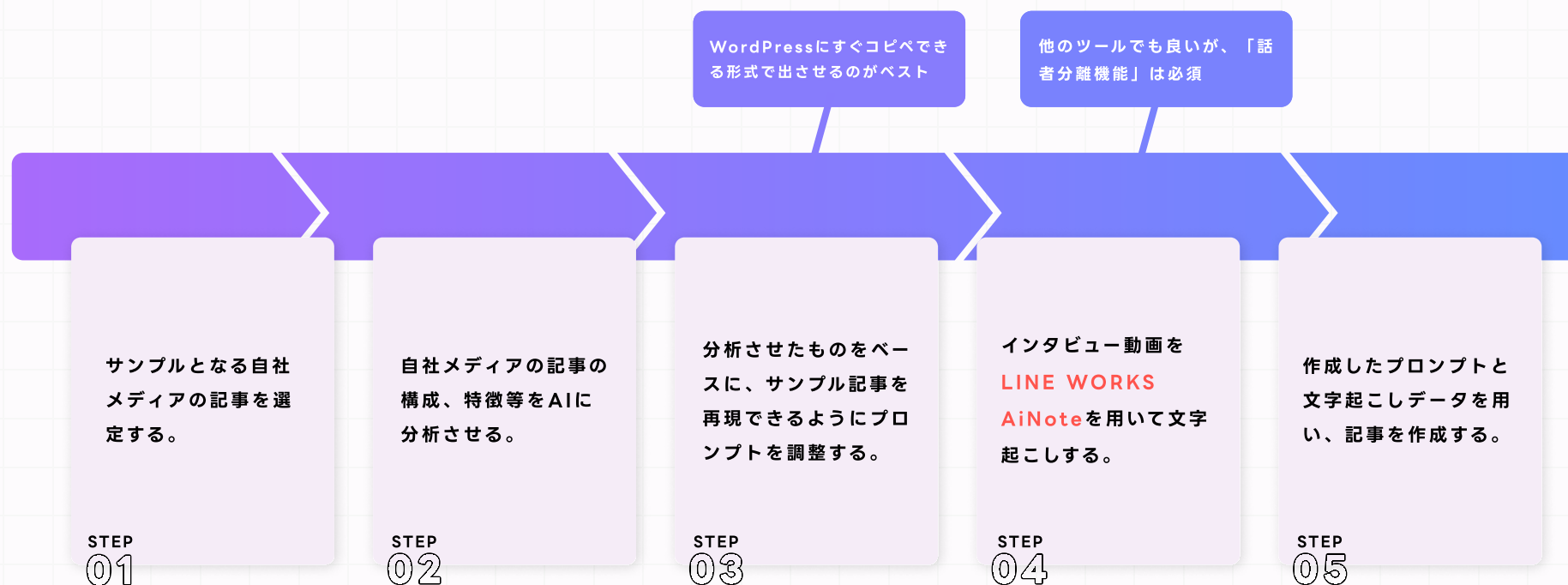
文字起こしデータをもとに、3分で完成度80%の状態に仕上げられるフローを構築

成果/効果

ライターの作業時間が大幅に削減され、**短期間で記事を公開できるようになった**

コンテンツ公開スピードが上がり、自社メディアの**運営効率が改善**

事例紹介⑤の導入方法

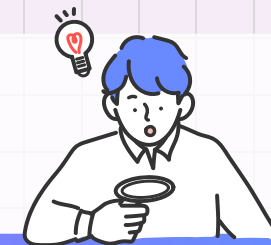


POINT

- **WordPressに入稿する場合、HTMLタグもを含めて出力させる。**すると自動で文字装飾ができるため、作業を効率化できる。
- 文字起こしツールはさまざまあるが、**動画からの文字起こしにはLINE WORKS AiNoteがおすすめ。**無料で使えて精度が高く、話者分離まで行えるため非常に使い勝手が良い。



LINE WORKS AiNoteとは？



▲インタビュー音声を文字起こした様子

概要

LINE WORKS AiNoteは、**LINEが提供する高精度な文字起こし機能を有したノートツール**です。

数ある文字起こしツールの中でも精度が高く、話者分離機能も備えています。

特徴

文字起こしの精度が非常に高く、UIも優れており、無料で使える分量も多いのが特徴です。

YouTube動画やセミナー動画から記事やホワイトペーパーを作成するのに適しています。

あなたの会社と生成AIをリンクさせる

AldeaLinkのご紹介



AldeaLink（アイデアリンク）とは

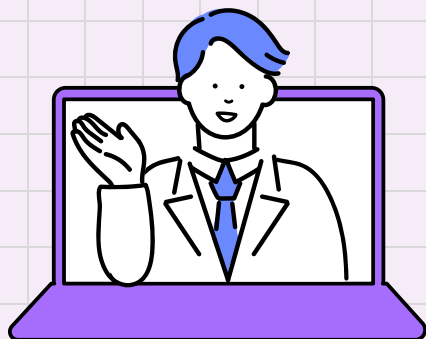
AldeaLink（アイデアリンク）とは、
今春リリース予定の「生成AIの企業活用
支援サービス」です。

オンライン講座・個別研修・AI実務支
援等で企業の生成AI活用を支援します。

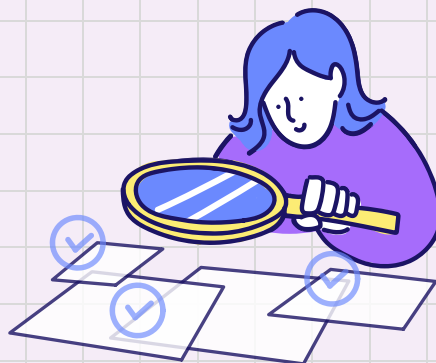


最新のAI業務活用法を学べる「生成AI活用講座」のご紹介

社員がAIを”使える”ようになるための、
最新のノウハウを提供します。



AI活用やテクニックを基礎
から学べる連載型講義



業務シーンごとに逆引き
できるAI活用ノウハウ



AIに限らず、業務を効率化する
ITツール・テクニックも紹介

また、必要に応じて専任のパートナーによる
個別の社員教育研修も検討しています。



生成AI×実務支援"AI Task Partner"のご紹介

生成AIの活用法はわかったけど、
実践できる社内リソースがない…



そもそも何から始めるべきかを相談して、
なんならそのタスクを巻き取ってほしい…

そんな悩みを抱える企業様には、"AI Task Partner"がお応えします。

当サービスは、生成AI活用のプロフェッショナルが、お客様の業務を直接支援するサービスです。コンサルティングにとどまらず、実務レベルでのAI活用をサポート。企画書作成、マーケティング文章の生成、データ分析など、さまざまな業務においてAIの効果的な活用を実現します。

サービスの特徴

- ・ タイムチャージ制で柔軟な活用が可能
- ・ 企画から実行までワンストップで対応
- ・ 業界経験豊富な専門家による実践的支援
- ・ 最新のAIツール・手法を活用した業務効率化

活用シーン例

- ・ マーケティング資料の作成効率化
- ・ 社内ナレッジのAI活用による整理・体系化
- ・ データ分析・レポート作成の自動化
- ・ 業務プロセスの見直しとAI導入支援

※今春から提供予定です。現在試験運用中につき、ご興味のある方はお問い合わせください。
テストリリース価格にてご提供いたします。

＼ 期間限定！毎月 **先着10社** まで！ ／

AI活用個別相談会のお知らせ



あなたの会社のお悩み、お聞かせください。

弊社は自社内で積極的に生成AI活用を行ってきました。

しかし、AldeaLinkを本当に価値あるサービスにするには、
より多くの企業様が抱える課題を知らなければいけません。

そこで、**あなたの会社のお悩みをお聞かせいただけないでしょうか？**

Zoomで30分間ヒアリングし、その場でコンサルティングを行います。

期間限定・先着10名までの取り組みとなりますが、
ぜひお気軽にご相談ください。



お問合せ・個別相談のご案内



AI活用でお悩みの企業様に、30分間の無料コンサルティングを行います。

相談サービス詳細

- 実施形式：Zoomによるオンラインミーティング
- 相談時間：30分（質疑応答含む）
- 対象企業：法人様限定（先着10社）
- コンサルティング費用：無償

ご相談内容

- 自社における生成AI活用についてのご相談

「この業務を効率化したい」「これをITで楽にしたい」など、ざっくばらんにご相談ください。
また、AldeaLinkのサービス内容に関するご質問も大歓迎です！

お申し込みについて

以下の手順でご予約を承ります

1. お申し込み先：support@aidea-link.jp
2. 必要情報：
 - 件名：「アイデアリンク個別相談」
 - 本文：①企業名②部署名③ご担当者様氏名④ご相談内容をご記載ください。
3. お申し込み後、担当より2営業日以内に日程調整のご連絡をさせていただきます。

提供企業情報

株式会社デイトラ

AideaLink（アイデアリンク）事業部

※本サービスは法人企業様のみを対象としております。誠に恐れ入りますが、個人の方からのお申し込みはご遠慮いただいております。